

悪い朝

僕は下りホームのベンチに腰掛けていた

眠りの中に安らぎがないなら
死の中もまた同様にちがいない

下り電車が到着し、そして去って行った

15分前と変わらぬ僕の心と
15年前とは全く違う肉体

生活というまるでっこいテンポと
波長の短い感情の波

この僕自身がこのようにしたのか
こうでしかありえないのか

上り電車が到着し、そして去って行った

僕自身が賛美したこの世界とは
こんなものが

子供達よ、何と気の毒なことだ
こんな世界に生きてゆくのだとは

焦燥の故の自暴自棄が
君たちを食いつぶしてゆくだろう

僕は下り電車に乗り込んだ

(1997.10.13)